

\*\* 救命講習に汗だく \*\*



イベント参加者を案内中に不測の事態が起きた場合の応急手当にと、5月15日斜里消防署の救命救急士を講師に迎え、全職員が救命講習を受講しました。

学科の講習後、ダミーを使って人工呼吸・心臓蘇生法の実技を各人2回行って、その後効果確認の検定があり、約5分間の実技を汗だくになって取り組み、全員がどうにか普通救命講習修了証を手に入れました。

## イベント参加者のアンケートから

初めて実施した体験林業の植樹体験に参加した方々の感想を紹介しましょう。

- 植林に参加した事で新聞やテレビのニュースを見る目も変わりました。山と海・川そして私達の生活の中に、植林の大切な事……一本でも多く根を付けてくれたらと思います。
- 植樹体験は、大きく言えば地球を守り、私達人間のみならずあらゆる生命の源を守るものと思えます。
- 自分自身の楽しみだけに終らず、ほんの少しの体験(植樹)が、気の遠くなる年月の先に実になる事に感動をおぼえます。将来の展望に立ち自然保護を考えて一般人の私達への指導をお願いしたいと思えます。

志村さん (緑化第1係長)

日本林業技術協会理事長賞に輝く

去る5月26日、日本林業技術協会主催の第43回林業技術コンテストが東京で開催されました。全国各地の営林(支)局や県などの林業関係者から16演題の発表があり、その中で当センター志村緑化第1係長が発表した「知床国有林におけるミズナラ堅果結実調査」が日本林業技術協会理事長賞の栄誉に輝きました。

ミズナラは知床半島の森を構成する主要樹種の一つとして重要であるばかりでなく、その堅果(ドングリ)は、エゾヒグマやエゾシカなどの重要な餌となっています。

ミズナラ堅果の結実状況等の動態を把握することにより、今後の天然林施策実施の一助になればとの考えからこれまで8年間にわたる調査の結果を取りまとめ発表したものです。



## 知床の森から

平成9年6月 第49号



北知床支店 ☎ 099-41 北知床町緑地11番地  
知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160



イワギキョウ(キキョウ科)  
北海道は夏山登山のシーズンに入った。高山の植物の群落にきりりと咲くこの花は、いかにも高山植物らしい雰囲気をもたえて楽しませてくれます。

## 知床の森で植樹を体験

体験林業(植樹)と自然観察

第14回『森とのふれあい〜植樹と知床五湖めぐり』を5月18日に開催しました。

今年度からは、「森とのふれあい」に森林を見ていただくイベントに加え、森林づくりを直接体験していただく体験林業も企画。その手始めとして森林づくりの最初の仕事になる植樹を体験してもらいました。

当日の参加者は23名で、年齢は24才から87才までの年齢構成です。

午前中は地元、斜里町・洞爺湖町が毎年主催する植樹祭に合同で参加。早朝からの雨模様は次第に回復し、絶好の植樹日和となりました。

場所は斜里町峰浜町有林で、植栽木は高さ50cm程度の4〜5年生ミズナラ苗木を1人10本前後を手に鍬やスコップを使い植えました。殆どの参加者は植樹が初めてとあって、植え付け穴を掘るのにも苦労していましたが、苗木が枯れないで付くよう1本1本を丁寧に心地よい汗をながしながらの植樹体験となりました。

午後からは、知床五湖コースを1湖から五湖まで3キロを歩きました。五湖のなりたちや、樹木の光合成の仕組み、エゾシカの樹木被害と林業の関わり、午前中植樹したミズナラ大径木(樹齢300〜400年程度)を見ては驚き、木が育つ長い年月を感じたりなど、観光で訪れる五湖とは違う発見に満足していた模様です。また、所々に群生するミズバショウに目を和ませながら、春の気配を感じすがすがしい気持ちで過ごすことが出来たようです。



## 木の仕組みについてまなぶ！



雨の中、カッパや傘を手に

知床初夏の森で自然観察



6月7日（土）、第35回『森林レクリエーション・in知床』を遠音別岳山麓で20名が参加し行なわれました。

コースは、海岸線を走る国道とほぼ平行に走る海岸断崖上の台地をうねるように延び、所々に海が見渡せる林間コースです。

今回のイベントは森林浴・自然観察です。新緑の樹木の葉を観察し、光合成作用に

より木が成長する構造、葉での呼吸や蒸散作用、樹木が水を吸い上げる時に通る箇所はどこかなど木の秘密について知ってもらいました。

いろいろな樹木の紹介では、普段の生活で使われている木の用途、立木としての価格、名前のいわれなど、私たちの生活と森の関わりについても学んでいただきました。

また、枝からぶら下がる雄花・雌花を見て、普段あまり見られることの少ない樹木の花の形と付き方、受粉の形態や、枝の樹皮がノミで削られたような食痕はエゾリスによるものであることも観察でき、新しい発見をすることが出来たようです。

今回は1日中雨が降ったりやんだりの天候でしたが、それでも知床初夏の息吹に満足していたようです。



みどりの

フェスティバル

に参加

5月25日清里町緑町のJR駅前広場を会場に「97・みどりのフェスティバル」が開催され知床森林センターでは、今年も地元清里営林署と共に参加しました。

初じめての試みでしたが、パソコンに入力した数百の知床の森林、動物、植物などの写

知床の森<自然観察教育林>で

## たっぷり自然観察

6月21日（土）、第36回『森林レクリエーション・in知床』を、知床自然観察教育林で17名が参加し行なわれました。

一行は明るい森に入ると、まずウグイスが歓迎してくれます。

コースに沿って歩くといろいろな森の姿が現れます。

青い苔に覆われた倒木上で生育する幼樹（倒木更新）、斜面の方向で異なる森の木々、そして小道沿いに可憐に咲くクルマバソウ。幻の沼と称されるボンホロ沼は霧の中に眠り、幾つもの滝を有するホロベツ川は、豊かな水量で滝を豪勢に仕上げていました。エゾユズリハの大群落は艶やかな葉で地表をおおい、エゾシカが泥浴びをするヌタ場は今も利用されているようでした。

道ばたのいろいろな草花は開花を自前にし、チチと鳴くシジュウカラの声と和して、初夏の風情にあふれていました。

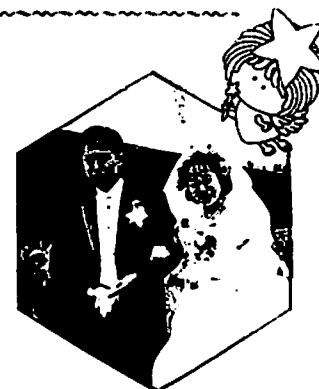
コースの何方か所には、樹木に樹名板が取り付けられてあり、納得顔でうなずいている人もいました。

当日の全行程は5キロ余り、終日霧に包まれた涼しい森の道をゆつくり進み、立ち止まっては、自然の現象や森と樹木、動物や植物、花などについて学ばれました。また幸運にも森の幸シイタケを発見し、喜んでいる人もいました。森の中に身を置くこと5時間弱、登り下りの森歩きでしたが、みなさんは知床の初夏の森を堪能したようでした。



真を希望者にプリントアウトしてプレゼントしました。珍しさもあつて好評で希望者が殺到パソコンはフル稼働でした。

みどりのフェスティバルらしいイベントメニューも用意されていましたが、その中でも一般から応募のあつた二組のカップル（道外）が、同会場内で結婚式をあげ華やかにしていました。また、緑小学校全生徒の可愛いクマゲラ太鼓や一般参加者による丸太転がし競技、自然観察会などがあり、会場のテントでは土産店や食べ物店で賑わって、いっそう盛り上がりつつありました。



たんばばのブーケと髪飾の花嫁さん